

緑区 有松学区

世帯数：4,428世帯 人口：11,334人 面積：1,481km²

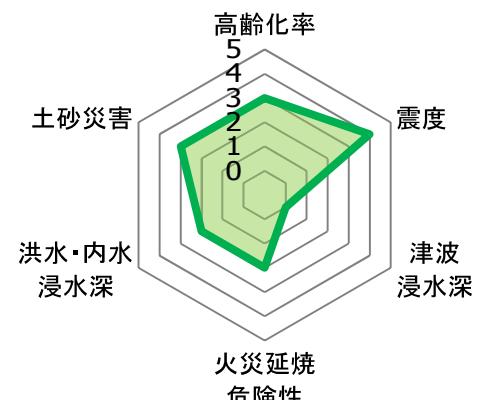
※平成31年2月1日現在の世帯数と人口より

特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、強い揺れが想定されます。まずは身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。洪水による浸水は想定されていますが、内水氾濫についてはごく一部に1.0m未満の浸水想定があります。想定以上の降雨があった場合は、その限りではありませんので、普段から、台風情報や降雨などについても、情報収集できるよう確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート([STEP1: 地域特性の把握])

	値	5段階
高齢化率	21.1%	3
震度	6強	4
津波 浸水深	0m	0
火災延焼 危険性	100~500棟未満	2
洪水・内水 浸水深	0.5m~1.0m未満	2
土砂災害	警戒区域に 人家10件以上	3



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難所のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック屋など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。
●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。
<http://www.city.nagoya.jp/bosaikippanri/page/0000110628.html>

地震時の行動(津波浸水想定区域外)

揺れた!!

- 身の安全の確保
 - ・頭を守り揺れがおさまるまで待つ
 - ・安全に消せる場合は火を消す
 - ・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意
- 自宅の耐震化や家具転倒防止対策を進めておきましょう。
- 机がない時は、クッション、かばんなど物で頭を守りましょう。

お搖さ
まつた!!

- 火の元の確認、出火したら初期消火
- ・怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- ・家族の安否・家の被害状況の確認
- ・テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから正しい情報の入手
- ・非常持出品の準備

災
害
の
危
険
解
消
●

- ◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活!
- 避難所は多数の方が避難生活をするため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

在
宅
避
難



避
必
緊
難
要
急
な
避
場
難
合
が
は

- 高齢者や障害者などの避難誘導を
- 原則、徒歩で避難

風水害時の行動

3日前 台風が発生した 情報収集

・テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報を入手

2日前 台風や大雨が来るぞ!! 準備

- ・避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- ・家族との連絡方法の確認
- ・家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け

1日前 雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- ・情報収集を続けて、避難開始時期を判断
- ・50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- ・自主的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する
- 洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる
- 土砂災害警戒区域にいる
- 堤防の近くで、安全な建物^{*}にいない

どれか一つ以上 該当する 該当しない 自宅などにとどまる

避難情報の発令等により避難行動!! 避難開始

- ただちに避難!(垂直避難)
 - ・指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ
 - ・屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ
- 避難勧告
 - ・被害が発生するおそれがあるため、避難をすすめるために発令するもの
- 避難指示(緊急)
 - ・被害の危険が目前に迫り、生命の危険がより高まったため、避難を強くすすめるために発令するもの

土砂災害からの避難

大雨や地震などをきっかけとして、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害が発生することがあります。土砂災害には前兆現象がある場合もあります。土砂災害警戒区域では、特に危険性が大きいので、いざという時に適切な避難行動がとれるように考えておきましょう。



《土砂災害警戒情報》

大雨警報(土砂災害)発表後に土砂災害の危険がさらに高まった場合に、市町村単位で、都道府県と気象庁が合同で発表

《土砂災害警戒判定メッシュ情報》

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、地図上で5km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして示す情報(気象庁ホームページで確認できる)

《土砂災害の主な前兆現象》

- 斜面にひび割れや膨らみなどの変形が見られるとき
- 斜面から水が噴き出てくるとき
- 水が濁ったり、水量が急に減るとき
- 木立が不揃いになったり、井戸の水が濁るとき
- 斜面から石ころが落ちるとき

学区の取り決め、行動計画、心得など(ご協力ください)

- ◆建物の耐震、家具の転倒防止など、命を守るために安全対策を進めましょう。
- ◆地震ブレーカーや火災報知器の設置など、火災による被害を出さないように備えを進めましょう。
- ◆日頃から、一時集合場所や避難場所等を確認しておきましょう。

在宅避難のススメ

- 避難所は、不特定多数の方が避難生活をするため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。
- 在宅避難している高齢者や障害者などへの声掛け
- 周囲に自宅避難を知らせよう!
- 最寄りの避難所で避難者登録しよう!
- 周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう!